

資本主義と職業倫理の歴史的起源

山口 勝業 CMA

目 次

1. はじめに
2. 欧米の近代資本主義と職業倫理
3. 日本人の職業倫理の歴史的起源
4. まとめ：職業倫理（道徳）＝道＋徳

1. はじめに

金融業界では、眉をひそめるような不祥事がしばしば起きて後を絶たない。最近ではSMBC日興証券の株価操作事件、数年前のスルガ銀行のシェアハウス向け融資での不正、10年ほど前のAIJ投資顧問での運用パフォーマンス捏造による年金消滅事件。

日本だけでこうした事件が起きたのかといえば、海外でもまた同様だ。米国のマドフ氏（NASDAQ元会長）による虚偽パフォーマンス報告、英国ではロンドンの銀行ディーラーたちが結託したLIBOR金利操作など、金融先進国であった英米でも事件は相次いだ。

「浜の真砂は尽きるとも、世に盗人の種は尽き

まじ」と石川五右衛門は言っただろうが、「金融業界に詐欺師・不屈き者の種は尽きまじ」と嘆くばかりだ。

資本主義では金融不祥事は必然的に起きざるを得ないのだろうか？ 自己の利益追求を最優先の動機として経済行動をとるかぎり、他人や世間一般に迷惑や損失をまき散らしながら行動しがちなのは、避けられない悪弊なのだろうか？

本稿では、「資本主義と職業倫理は相反する宿命なのか」という問いに対して、欧米とわが国の経済思想の歴史をさかのぼりながら考えてみたい。



山口 勝業（やまぐち かつなり）

イボットソン・アソシエイツ・ジャパン取締役会長、早稲田大学ビジネススクール教授。博士（経済学）、日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）、CFA協会認定証券アナリスト。1979年一橋大学社会学部卒業、1986年Yale School of Management修了（経営学修士）。日本長期信用銀行などを経て、2000年イボットソン・アソシエイツ・ジャパン代表取締役社長、2016年同社会長。2022年早稲田大学ビジネススクール教授。主な著書に、『日本経済のリスク・プレミアム』（東洋経済新報社、2007年）、『アセット・マネジメントの世界 第2版』（共著、東洋経済新報社、2022年）、ほか論文多数。